

# Dumplog ユーティリティの使用方法

## 目次

[概要](#)

[前提条件](#)

[要件](#)

[使用するコンポーネント](#)

[ダンプログユーティリティの機能](#)

[ログファイル ディレクトリにアクセスする方法](#)

[使用方法](#)

[ダンプログ例](#)

## 概要

このドキュメントでは、dumplog ユーティリティについて説明します。このユーティリティを使用すると、Cisco Intelligent Contact Management ( ICM ) プロセスに関連付けられた特定のログファイルを表示できます。

## 前提条件

### 要件

次の項目に関する知識があることが推奨されます。

- ソフトウェア上の問題の問題を解決する方法
- Cisco ICM

### 使用するコンポーネント

この文書に記載されている情報は Cisco ICM に基づいています。

このドキュメントの情報は、特定のラボ環境にあるデバイスに基づいて作成されたものです。このドキュメントで使用するすべてのデバイスは、クリアな ( デフォルト ) 設定で作業を開始しています。ネットワークが稼働中の場合は、コマンドが及ぼす潜在的な影響を十分に理解しておく必要があります。

## ダンプログユーティリティの機能

Dumplog ユーティリティは可読フォーマットに Cisco ICM プロセスによって書かれているバイナリ ログファイルを変換します。変換されて ICM オペレーションに把握を得るために、ログファイル コンテンツは参照することができます。通常、解決するのにツールとして dumplog が使用されています同様に教育である場合もあります。

Dumplog ユーティリティは ICM サーバのコマンド プロンプト直接、または Telnet セッションから ICM サーバへの呼び出すことができます。

注: 次の例は ICM が Cドライブでインストールされていると仮定します。ICM が別のドライブでインストールされている場合、ディレクトリの位置はそれに応じて変更されます。

この資料で使用されるサーバ命名規則に関しては [ICM サーバ命名規則](#)を参照して下さい。

## ログファイル ディレクトリにアクセスする方法

Cisco ICM ログファイルディレクトリへのパスは <root> が ICM が、たとえば、C、D、または E.インストールされているドライブの <root> \ ICR \ です。

Cisco ICM 呼び出しルータは Cドライブでインストールされているとたとえば、考慮すれば、geoscotra のログファイルディレクトリはで見つかります: c:\icm\cscotrtra\logfiles。

注: これはログファイル ディレクトリへのショートカットとして使用することができます:

```
c:\ >cdlog <cust_inst> <ICM_Node>。
```

## 用途

Dumplog ユーティリティのためのコマンドラインオプションはこのセクションで示されます。それらは特定の期間以内の Cisco ICM ログファイルを表示することを可能にするので問題を解決するのに助けることができます。時間は /bd、/bt、/ed および /et スイッチと定義可能です。ユーザはまた更に不審な ICM 動作を隔離し、解決するために特定のストリングを捜すことができます。

この情報はまた *Cisco Intelligent Call Router 管理者ガイド*で見つけることができます。

```
dumplog [ProcessName(s)] [/dir Dirs] [/if InputFile] [/o]
[/of OutputFile]
[/c] [/bd BeginDate(mm/dd/yyyy)] [/bt BeginTime(hh:mm:ss)]
[/ed EndDate(mm/dd/yyyy)] [/et EndTime(hh:mm:ss)] [/hr HoursBack]
[/all] [/last] [/prev] [bin] [/m MatchString] [/x ExcludeString] [/ms] [/debug]
[/ciscoLog]
[/unzipCmdPrefix Prefix for Unzip command]
[/unzipCmdInfix Infix for Unzip command]
[/unzipCmdPostfix Postfix for Unzip command]
[/unzipTempfile Temporary filename for unzip command]
[/zipPostfix Postfix of zipped files]
[/tzadjustoff]
[/help] [?]
```

### パラメータ 記述

<b>ProcessName</b>	コマンドは他の引数の異なる日付か時を規定しなければ、このプロセスのための現在
<b>/dir ディレクトリ</b>	ディレクトリはコマンド・ラインにリストされているあらゆるプロセスのためのログ
<b>/if</b>	InputFile はダンプするために仕様 .ems ファイルを規定します。 /if トークンはオプション
<b>/o</b>	\ ディレクトリにテキストファイルに出力を書きます。 ファイル名は特定のプロセス
<b>/of</b>	OutputFile 出力テキストファイルを規定します; たとえば、 c:\temp\mylog.txt。
<b>/c</b>	連続的な出力を規定します。 コマンドはログの終わりに達した後終了しません。 その
<b>/bd</b>	BeginDate mm/dd/yyyy 開始日付を規定します。 もし使用するなら /bt と、これは日付の
<b>/bt</b>	BeginTime hh: mm: ss 開始時間を規定します。 時間の範囲を規定するために /et と使

<code>/ed</code>	EndDate mm/dd/yyyy 終了日を規定します。幾日の範囲を規定するために <code>/bd</code> と使用して
<code>/et</code>	EndTime hh: mm: ss 終了時刻を規定します。時間の範囲を規定するために <code>/bt</code> と使用
<code>/hr</code>	HoursBack 現在の時刻から背部いくつかの時間を規定します。
<code>/all</code>	特定のプロセス ログファイルからのすべての情報を表示する。
<code>/last</code>	プロセスのための最新ログファイルからの情報を表示する。
<code>/prev</code>	次からの情報をプロセスのためのログファイルを持続させるために表示する。
<code>/m</code>	MatchString 特定の文字列のための一致が含まれているイベントだけ表示する。
<code>/x</code>	ExcludeString 特定の文字列のための一致が含まれていないイベントだけ表示する。
<code>[/ms]</code>	タイムスタンプのミリ秒を表示する。
<code>[/mc]</code>	マージされたログをダンプするとき複数の色を使用して下さい。各プロセスは異なる <b>dumplog</b> はそのプロセスのための現在の日付ログをデフォルトで表示する。
<code>/ciscoLog</code>	CiscoLog 機能性を有効にします。
<code>/unzipCmdPrefix</code>	パラメータのための解凍します、たとえば <code>gzip - d - c</code> 前に付けて下さい。
<code>/unzipCmdInfix</code>	パラメータをのための解凍します、たとえば <code>&gt;</code> 固定して下さい。
<code>/unzipCmdPostfix</code>	後置パラメータのための、たとえば <code>" "</code> 解凍します。
<code>/unzipTempfile</code>	TEMPファイルのための、たとえば <code>temp.ems</code> 解凍します
<code>/zipPostfix</code>	ファイル後置パラメータ、たとえば <code>.gz</code> 。
<code>/tzadjustoff</code>	EMS ファイルが別のタイムゾーンのシステムにコピーされる場合、またはシステムの <b>dumplog</b> ます。クエリがこのマシン時間に関して送信される動作を切り替えるためにさもなけ

注: 表示するためにリダイレクトし Microsoft Notepad が付いているログファイルを、テキストファイルに保存しログファイルを ( **dumplog** /of 引数を使用して下さい )、開きます **notepad filename** コマンドでコマンド プロンプトからのテキストファイル。

## ダンプログ例

この例に 1999 年 4月 29 日の始めから 1999 年 4月 30 日までのルータで `rtr` ログファイルをダンプする方法を示されています。それは `rtr.txt` 呼ばれるログファイルに出力します。ファイル `rtr.txt` Notepad のような標準のテキストエディタと今表示することができます。

```
c:\icm\cisco\rtra\logfiles dumplog rtr /bd 04/29/1999 /ed 04/30/1999 /o
```

このコマンドは新しいログファイルによってが出力のために開いていた最後に始まる Peripheral Gateway ( PG ) からの `pgag` ログファイルをダンプします。

```
c:\icm\cisco\rtra\logfiles dumplog pgag /last
```

このコマンドは織り交ぜられた方法で複数のプロセスからのログをダンプし、単一 出力 ファイルに出力を書きます。

```
dumplog /ms /hr 1 /of output.txt rtr mds rts
```

```
14:51:40:298 ra-rts Trace: Received 1 System Capacity Real Time records
14:51:40:298 ra-rts Trace: Updating base System Capacity Real Time record for ID1 1 and ID2 0,
cbRecSize=96
14:51:43:298 ra-rtr Trace: TIP: TIPUpLink::sendCongestionControlTIPMsg Sent
CongestionControlEvent
14:51:46:298 ra-rtr Trace: TIP: TIPUpLink::sendCongestionControlTIPMsg Sent
CongestionControlEvent
14:51:49:298 ra-rtr Trace: TIP: TIPUpLink::sendCongestionControlTIPMsg Sent
CongestionControlEvent
14:51:49:688 ra-mds MDS Process is reporting periodic overall metering statistics.
```

ハイフンの構文はまたサポートされます。

```
dumplog -ms -hr 1 -of output.txt rtr mds rts
```